

特別展

# 尾張徳川家の雛まつり

平成30年2月3日(土)～4月8日(日)

主催 徳川美術館・名古屋市蓬左文庫  
中日新聞社  
協力 名古屋市交通局



## かねひめ 矩姫さまの雛人形・雛道具

矩姫(貞徳院・1831～1902)は福島・二本松丹羽家10代長富の三女として生まれ、嘉永2年(1849)に尾張家14代当主慶勝にお嫁入りしました。矩姫の雛人形は、束帯姿三対・直衣姿一對・狩衣姿一對の有職雛(公家の装束を正しく考証して作られた雛人形)で、高さはおよそ30センチあります。当時製作された大名家のお雛様のなかでも、ひときわ格調高い作品です。

## 内裏雛飾り

有職雛(束帯姿・直衣姿・狩衣姿) 五対  
五人囃子(雅楽) 一揃  
犬張子 二対



## 内裏雛飾りとさまざまなお人形

矩姫が所持した小さな雛人形です。江戸時代の終わり頃、将軍家や御三家では、雛飾りが大奥の2～3箇所にしつらえられたといわれています。この人形たちの箱には「御内証」の貼札があり、プライベートな場で飾られたと考えられます。

有職雛(衣冠姿・直衣姿・小直衣姿・狩衣姿) 五対  
七人囃子(雅楽)・三人官女・隨身 一組  
色絵唐子人形 貞徳院矩姫(尾張家14代慶勝正室)所用 一組  
豆賀茂人形 一組

## しょうちくばいからくさまきえ 松竹梅唐草蒔絵雛道具

矩姫が所持した雛道具です。梨子地に松竹梅の折枝と唐草文をあしらひ、銀の金具を打った豪華な仕様の道具類で、80件余りが伝えられています。福君の雛道具とともに、徳川美術館に収蔵される雛道具の代表作です。

乗物 鏡建 伏籠 小袖簞笥 将棋盤 碁盤 双六盤 三味線 箏の琴 など

ほ たん からく さま き え

## 牡丹唐草蒔絵雛道具

定かではありませんが、もとは11代将軍徳川家斉が日頃愛玩した雛道具で、のちに故あって矩姫の所持するところとなったと伝えられています。

貝桶 懸盤 御所車 乗物 指樽 冠台  
長持 見台 双六盤 碁盤 将棋盤 など

## 福君さまの雛道具

五摂家の筆頭・近衛家から尾張徳川家11代<sup>なりはる</sup>齊温に嫁いだ福君(俊恭院・1820~40)の雛道具を公開いたします。

## 菊折枝蒔絵雛道具

梨子地<sup>なしじ</sup>に菊の折枝を配し、所々に近衛家の家紋である抱牡丹紋と徳川家の葵紋を散りばめたデザインを施し、金具にはすべて銀が用いられています。福君の婚礼調度として伝来する、等身大の菊折枝蒔絵調度の諸道具と遜色のない精巧な出来映えを示しています。



長持 長刀 茶弁当 文台・硯箱  
見台 櫛台 源氏簞笥 乗物 など

だ き ほ たん もん ちらし まき え

## 抱牡丹紋散蒔絵雛道具



「菊折枝蒔絵雛道具」とともに、福君が所持した雛道具です。梨子地<sup>かながい</sup>に金貝と蒔絵によって、近衛家の家紋である抱牡丹紋を配し、金銅製の金具を打っています。菊折枝蒔絵雛道具と比べ寸法に多少の違いが認められますが、豪華さと格調の高さに独特の趣きがあります。

厨子棚飾り 黒棚飾り 書棚飾り 台子皆具・茶坊主人形  
湯桶・盥 炭斗 広蓋 葛籠 など



## <特別公開> 大正天皇ゆかりの御台人形



小さい台が付属する御所人形は江戸時代より製作されてきましたが、明治時代に入ると草木や小道具などを配した大型の台に飾られた御所人形が登場します。この御所人形は、「御台人形」と呼ばれ、皇族の子女が初参内・初節供・初誕生日などの慶事の折々に、おもに天皇・皇后より賜る特別な御所人形です。題材は皇族の慶事にふさわしい吉祥的説話や謡曲などに取材しています。

今回展示する2つの御台人形は、久<sup>く</sup>邇<sup>のみやあさひこ</sup>宮朝彦親王の第九子<sup>なるひこお</sup>稔彦王(1887~1990)が明治39年(1906)に創始した宮家・東久邇宮家旧蔵の品です。



## 尾張徳川家 三世代にわたる雛段飾り



徳川美術館の創始者である、尾張家19代義親よしちかの夫人米子よねこ(1892～1980)、20代義知よしともの夫人正子まさこ(1913～1998)、そして21代義宣よしのぶの夫人三千子みちちこ(1936～)の三世代にわたる尾張徳川家の雛段飾りです。数組の内裏雛を上段にすえ、三人官女・五人囃子をはじめ、節供の祝儀としてさまざまな方々から贈られた御所人形・毛植え人形などの人形、さらに多種多様の道具揃えが並べられ、江戸時代以降の大名家の雛段飾りのありかたがよく示されています。

## 高橋博子さまの内裏雛飾り

尾張家20代義知の次女・高橋博子さま(1938～)愛蔵の内裏雛飾りです。雪洞ほんぼりや懸盤かけばんなどの雛道具には、二葉葵の文様があしらわれています。

## さまざまな人形・雛道具

てっせんからくさまき え かけばん  
**鉄線唐草時絵懸盤**

たてわく しょうちくばいまき え  
**立涌に松竹梅時絵雛道具**

黒棚飾り 厨子棚飾り 書棚飾り 耳盥・輪台 長持 帯箆筥 櫛台 など

犬張子(犬筥)	名古屋市・建中寺蔵	二対
市松人形 瀧沢光龍齋作	徳川正子(尾張家20代義知夫人)所用	一体
御所人形	東京・西光庵寄贈	一組
染付食器		一組



## あわせがい 合貝

貝合わせは蛤の身と蓋を合わせる遊びです。二枚貝は特定の一片としか合わないため、合貝とそれを納める貝桶は、貞節の象徴として婚礼道具の中で最も大切にされました。

合貝 俊恭院福君(尾張家11代齊温継室)所用 江戸時代 19世紀  
合貝 武蔵野時絵貝桶附属 徳川義直(尾張家初代)・京姫(義直娘)ほか筆  
相応院(尾張家初代義直生母)所用 江戸時代 17世紀

# 用語解説

## 黒棚（くろだな）

<sup>くりやだな</sup>厨棚（台所棚）から発生したといわれ、室町時代に厨子棚と共に成立した。主に女性の化粧道具を飾る。厨子棚と同じく四段の棚からなり、二と三の棚の間に<sup>つぼね</sup>局がある。

厨子棚・黒棚・書棚をあわせて<sup>さんたな</sup>三棚という。室町時代には厨子棚・黒棚の二棚の組合わせであったが、江戸時代初期に書棚が加わり、婚礼調度には三棚を一組として扱うようになった。

## 書棚（しょだな）

厨子棚・黒棚が室町時代に形式が定まったのに対して、書棚は江戸初期になって婚礼調度に加えられた。飾り付けには特別な決まりがなく、冊子や巻物を飾る。形態や大きさも幾分自由であり、最下段には二本引または四本引の引戸が付く。

## 厨子棚（ずしだな）

平安時代の公家の調度であった二階棚と二階厨子が変化して、室町時代に成立していたといわれている。手箱・香道具・硯箱などを飾る。上段から一の棚・二の棚・三の棚・四の棚の四段からなり、一の棚は左右の両端が<sup>はぞ</sup>端反りである。二と三、三と四の間の二箇所に<sup>つぼね</sup>観音開きの扉がつく局がある。

## 挟箱（はさみばこ）

外出の際に必要な衣類・調度・装身具を納めて従者に担がせる箱。方形で<sup>かぶせぶたづくり</sup>被蓋造、棒を蓋の上に通して肩に担ぐ。近世の武家独自の旅行用具。語源は昔、衣服を竹に挟んで運んだためという。大名行列で先頭を挟箱が行く場合は、<sup>さきばこ</sup>先箱とも呼ぶ。

## 伏籠（ふせご）

格子状の方形の箱形、または棒を緒でつないで組んだ柵状で、これに衣服をかける。中に香炉を入れ、衣服に香をたきこめるために用いる。

## 長持（ながもち）

衣服・調度などを納める長方形の大型の箱。吊り金具が両端に付き、棒を通して前後二人で担ぐ。大中小の大きさがあり、数も数個以上揃えられた。

## 耳盥（みみだらい）

半球状の盥で、左右に<sup>とって</sup>耳状の把手が付く。<sup>はぐる</sup>歯黒染の際に用いられ、<sup>わたしかね</sup>渡金を耳盥の口縁に渡し、その上で<sup>かね</sup>鉄漿（お歯黒の墨）を溶く。

## 広蓋（ひろぶた）

元来は衣服を入れる箱の蓋の転用であったが、発展して身は作られず衣服用の大型の盆として作られるようになった。また衣服に限らず贈答品や客人へ供する物品なども載せる。

## 椽・角盥（はぞう・つのだらい）

角盥は半球状の盥に四本の角状の手が付くところからこの名称がある。二人でこの手をもって運ぶのに便利な構造で、水指の椽と一対をなす。

## 行器（ほかい）

外居とも書く。「ほがい」とも読む。食物を入れて運ぶ容器。通常は二個一対。外反りの四脚が付く、円筒形と四角柱形がある。身から蓋にかけて紐で結び、棒を通して担ぐこともある。

## 指樽（さしだる）

酒を入れる箱形の容器。上部に注口をつける。